令和７年度　保育所の自己評価表・こども園の自己評価表　　伊丹市立こばと保育所

保育理念	安全･安心な保育環境のもと「たくましく生きる力･学びに向かう力」を育む
保育方針	一人ひとりを大切にする保育
（教育）･保育目標	心身ともに健やかでいきいきと遊ぶ ①健康な子ども　②感性豊かな子ども　③共に育ち合う豊かな子ども　④自分の思いを表現する子ども
重点目標	**『やってみたい！』からはじまる学びを育む保育の実施　～読み取りを通した子どもの遊び理解～**

項目	重点項目	達成目標・具体的施策	（年度末評価）（◎○△）	年度末評価・課題
学びの場である保育の充実	「愛情」を基盤とした自己肯定感の構築	・ありのままの姿を尊重し、自信や意欲へと繋げられるような丁寧な関わり方や言葉かけを意識できるように、少人数でのグループワークを年３回行う。また、話した内容を記録し、パート職員にも回覧し、情報を共有する。 ・全ての職員が一貫した愛情深い関わりを持てるように、毎日５分程度パート職員とも対話を行い情報共有や子どもを肯定的に捉える機会とする。	◎	･言葉がけの言い換えをテーマとしたグループワークや子どもへの関わり方についてのイラストを見て職員同士対話する機会を計3回設け、保育者自身の関わり方を振り返る機会となった。乳児クラスでは日々の情報共有を通して子どもの姿を多面的に捉え、その日の気持ちや姿に寄り添った関わりにつなげることができた。幼児クラスでも具体的な場面を想定した話し合いを行うことで、子どもへの声かけや接し方を見直す機会となった。保護者アンケートでも保育者の関わり方に対して肯定的な回答が100%であった。 ･朝夕の職員から前日夕方･登所時の子どもの姿などの情報を共有でき、子どもの情緒や姿を肯定的に捉えることができた。
	資質・能力を育む保育の推進	･クラスで動画や写真を用いて学びの芽や遊びの過程を丁寧に読み取り、個々の育ちや思いを保育者間で共有していく。（月１回以上） ･職員会議において乳幼児混合グループで動画の読みとりや対話をする機会をもち、多面的に子どもの姿や育ちを捉え、資質･能力を育むことができるような保育環境づくりをしていく。（月１回）	○	・月１回以上クラスや乳幼児会議で写真や動画を用いた振り返りを行い、子どもの興味や関心、遊びの過程を職員間で共有することで環境の再構成につなげることができた。 ・乳幼児混合でのグループワークでは、多様な視点から子どもの姿を捉える機会となり、育ちや学びの芽について理解を深めることができた。各学年の遊びを見合うことで発達の違いも共有することができた。一方で対話につながる動画の撮り方や内容には経験差が見られるので、撮る観点を伝え合う機会を持ち、職員自身の学びの機会や能力向上に努める。
	ちがいを認め合える仲間づくり	・年２回の人権研修を通して、人権意識や多様な考え方や言葉かけを見直し語り合う機会を作る。また保護者向け研修を行い、人権啓発に取り組む。 ・子どもたちと関わる中で、思いを受け止めると共に、個々のちがいを認め肯定的に捉えていく。また４、５歳児は週２回サークルタイムを設け、他児のよさや思いに気づけるような機会とする。	◎	・年 2 回の人権研修を行い、自身の言動を見直すきかっけとなった。しかし保護者向けの研修では回答率が十分でなかったため、次年度では啓発の取り組み方を工夫していきたい。 ・研修を通して保育者自身の言葉がけや関わり方を振り返る機会となり、子どもの思いや姿を受け止めながら関わる意識につながった。幼児クラスではサークルタイムを通して子ども同士が思いや経験を伝え合う機会を大切にし、友だちの気持ちに気付く姿が見られた。一方で職員同士が日々の関わりを語り合う機会は十分でない部分があり、来年度は職員の対話の場を増やしていきたい。
	健やかな体の育成	･乳幼児とも水に触れて遊ぶ時期を早め、戸外で水や泥に触れたり体を動かしたりする。 ･稲野公園のグラウンドや園庭、暑い時期は遊戯室や保育室を有効的に使用し、継続的に体を動かす機会をもち、体力作りに努めていく。（リズム遊び、体操、運動遊具、ゲーム遊びなど） ･クッキングや栽培活動、調理の様子を見たり、保育者と一緒に食べたりする経験を重ねていき、食への興味につなげていく。	◎	･水遊びの開始時期を早めることで水や泥に十分に触れて遊ぶ経験を重ねることができた。 ・稲野公園芝生広場の活用や遊戯室での活動を通して、広い場所でのびのびと体を動かす機会を確保することができた。十分に体を動かした日は、給食をよく食べ、健やかな体づくりにつながっていた。 ・栽培活動や調理の様子を見る経験を通して、食や自然への興味につながる姿も見られた幼児では、夏の暑い時期の栽培活動を２階のウッドデッキで行うことで、水やりをしやすく子どもたちも身近に生長を見守ることができた。自然物がよく育ったため、子どもたちも栽培物を食べる経験をより持つことができたように思う。今後も環境を工夫しながら体を動かす楽しさや食への関心を育む保育を進めていきたい。
保育者の資質向上	職員研修・園内研修の充実	・講師を招いた園内研修会を年１回行う。 ・研修受講後１週間以内にクラス間や乳児･幼児会議で研修報告を行い、即実践する。加えて、職員会議でも報告し全職員の学びに繋げる。 ・パート職員へ研修のポイントを記載した会議録や研修資料を回覧し、保育の共有をする。	◎	・年１回講師を招いた園内研修会を実施し、保育環境の在り方や保護者に対して保育の中の学びや環境構成の意図を伝えることの重要性について学ぶ機会となった。 ・保育者の資質向上を目標に園内研修や外部研修への参加を行い、学びを共有する取り組みを進めた。研修内容を写真や資料を用いて共有し、保育環境の見直しや再構成につなげることができた。また、公開保育などで得た学びを保育に取り入れる姿が見られた。一方で研修報告の時間確保が難しい場面もあったため、来年度は共有の仕方を工夫したい。
	チーム保育の推進	･園全体の行事や環境の準備など、乳幼児間やそれぞれの係が主となり進捗状況を確認しながら進める。 同じ目標に向かってそれぞれの職員のよさや個性を活かしながら業務を進められるように、声を掛け合う。 ･朝夕パート職員との会議を年に２回設定し、多角的に保育の共有や見直しをし、子どもたちがよりよく過ごせる保育環境を作っていく。	○	・乳児クラスでは環境の再構成後に子どもの姿や安全面について職員間で共有しながら、遊びの様子に応じた環境づくりを進めることができた。日々声を掛け合いながらクラスを超えて子どもに関わる姿が見られ、職員間の信頼関係の中で連携して保育を進めることができた。今後も役割分担を工夫しながら園全体で協力する体制を大切にしていきたい。 ・幼児クラスの行事準備は乳児クラスと連携を取りながら協力して進めることができた。園庭環境に関しては、乳児職員が率先して環境構成に努めた。来年度は幼児も連携して取り組めるように、園庭整備の日程を年間で予め決めておく。 ・朝夕の職員とは、日々及び年 2 回の会議で子どもの様子を共有し合うことができ、子どもの状況に合わせた環境構成に繋げることができた。
開かれ信頼される園づくり	園情報の発信	・月１回ホームページで、日々の遊びだけでなく、避難訓練や行事の様子、南中どんぐり拾いなど地域交流についても発信する。 ・乳児は月１回・幼児は２カ月に１回、遊びの様子や学びを写真や動画で配信する。また乳児は年３回ドキュメンテーション、幼児は週に１回こどもだよりを配信する。 ・保護者アンケートにおいて、肯定的な回答が９２％以上となる。	◎	・ホームページ担当を事前に決めることで継続的に情報発信を行うことができ、避難訓練や地域交流など幅広い内容を伝えることができた。 ・幼児クラスの週１回のこどもだよりでは写真や文章を通して日々の遊びや学びを伝えることができ、保護者から楽しみにしているとの声も寄せられた。乳児クラスでは年３回ドキュメンテーションを通して子どもの姿を伝えることができた。今後も配信方法を工夫しながら園の保育を分かりやすく発信していきたい。 ・保護者アンケートにおいて肯定的な回答は９８％で目標を達成した。
	小学校との接続	・積極的に幼小接続の研修会に参加し、子どもの発達や学びの連続性の大切さについて理解を深め、他の職員にも広める。 ・近隣小学校への授業参加や保育所の遊びの様子を載せた資料を渡すことで、互いの教育保育内容を知る機会とし、滑らかな幼少接続へつなげる。	○	・幼児クラスではオープンスクールやロケット製作を通して南小学校に行く機会をもつことができ、授業や学校生活の様子を知り小学校への親しみをもつことができた。また交流の際には保育所の遊びをまとめたこどもだよりを持参し、互いの教育・保育内容を知る機会とすることができた。乳児職員も、乳児期の育ちが幼小接続の基礎となることを意識しながら保育を進めている。今後も研修や交流を通して学びを共有し、子どもが安心して小学校生活につながるよう取り組みたい。
	地域交流 子育て支援	・近隣の中学校でのどんぐり拾いを通して、子どもたちが自分の住む地域と交流する機会をもつ。 ・稲野自治会との交流（年２回のクッキングで直接的な関わり･文化展では作品と共に遊びの過程や学びを掲示する）で保育所の活動を伝える。 ・見学や電話対応で相談を丁寧に行い、子育て支援につなげる。	◎	・４、５歳児が南中学校へどんぐり拾いに行き、地域に親しみをもつ機会となった。 ・芋ほりやクッキングなどを通して、地域の方と一緒に過ごす経験を持つことができた。また自治会の方にクッキングへ参加していただき交流を深めることができた。一方で文化展への作品出展について事前の周知が十分でなかったため、今後は子どもや保護者へ丁寧に伝えながら地域交流を広げていきたい。 ・保育所見学では、保護者の質問に丁寧に対応し安心感に繋げるとともに、主体的な遊びを大切にした保育内容についてわかりやすく伝えた。

備考	･避難訓練年間計画表を作成し、毎月１回以上、避難訓練を実施する。 ･災害発生時の待機中に必要となる備品や備蓄品を用意し、年１回点検している。 ･毎月１回保育所、こども園、児童発達支援センターの担当者が集まり、リスク担当者会を開催し、各園のリスク事案について共有し再発防止に努めている。 ･リスク担当者会で検討し、作成した各種マニュアルを全園（保育所、こども園、児童発達支援センター）で共通理解し、安全･安心な園生活を送れるよう職員一同努めている。
次年度に向けた重点的な改善点 今後取り組むべき重点的な課題	･子どもの資質･能力を育むための対話を通した豊かな環境の構築 ･架け橋期カリキュラムを活用した０歳児からの保育 ･子どもの学びを伝える効果的な（わかりやすい）発信